



語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月

GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

『生きているってこと』、『生きること』

投稿日：2016.01.19 ニックネーム：おかげさま

けいこ先生が、言われるように、『生きているってどういうこと』という問い。

私は47歳、ごく一般の女性ですが、その視点から、考えることは

閉塞された地球での生態系

私たち人間という種以外に、多種多様な種がいて、生態系の中で、その生命が続いてきた歴史があるならば

ひょっとしたら、人間という種だけが、叡智を持っているのではないかと、考えます。

その叡智を使い、ひとりひとりが、もしかししたら、自分が大事だと思ふことを進めている。ことが、何の役にたっているのか、わからないときがあったとしても

きっと、それは

地球に産まれた生物として、また人間として、人間にしかできない、自分にしかできない、『地球内の全生き物を、バランス良く保ち、生命を未来永劫、維持してゆくため』なのかも、しれないと。

人類が1人残らずいなくなっても、地球には、他の生命は、いるかもしれない。でも、私は人間だから、子や孫がずっと生きている地球のほうがいい。

生きているなら、人間は、やっぱり、地球内の生命を維持してゆくための、叡智を使っていかなければ、いくことが、他の生き物と、絶対的に違う、人間の役割ではないかと。

自分がやってることが、破壊なのか、進化への道付けなのかは

生命の維持を軸に考えて、自問自答しながら、納得してゆくしかないのかも知れません。

ネイティブアメリカンの言葉にもあるように

7代先を見通して、今何を選ぶ？

原子力も、原子力研究者であっても今、わかったことを教訓に舵を切り返すような研究を

まだまだ、他にも、課題は山積みだと私は、ごく一般であるけれど、そう思っています。

生命誌が目指す所、けいこ先生が大事だと思って進めていること、私をもっと賢かったら、一緒に研究したり、けいこ先生と一緒にお仕事したいと思うくらい、大好きですし、何かの研究や発見は、未来に必ず役立つ日が、進化につながると思いたい。です。



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

が、一般大衆の中で生きている私は

自分にしかできないことを、自分が大事だと思うことを、けいこ先生と同じ気持ちで、死ぬまでやるんだと思って生きていきますね。

お返事

投稿日：2016.01.22 名前：中村桂子館長

コメントありがとうございました。「生きているってどういうこと」という問いを続けていると書きましたが、私の場合、しかめ面をして難しいことを考えるのは苦手なので、本当に日常的なことを考えているだけです。さまざまな生きものの中で人間だけが叡智を持っているとはその通りです。そこでこれをどう生かすか。武器の開発にそれを使うのはN oですね。ここで大人はもっと現実的と言われるのはわかっていますが、N oの方向で考えることは大事だと思います。今、韓国の友人の「38度線を越える橋」のお手伝いをしています。非現実的と言わずに進めれば、いつかできるはずと思いつつながら。



中村桂子の「ちょっと一言」

生命誌に期待しています。

投稿日：2016.01.07 名前：杉山昭夫

東日本大震災が起きてからもうすぐ5年が経ちます。今ではほとんど話題に上らなくなりましたが、根本的なことは何一つ解決していないのではないかと感じています。震災を経験をした一人として、それ以降様々なことがありました。生命誌研究館や中村先生と出会ったのもその中でのことです。生命誌を基盤にしたものの見方や考え方に共感することばかりです。年末に『知の発見「なぜ」を感じる力』を読ませていただきました。その中で心に残ったのは、「自分が大事と思うことを考え、すばらしい人との出会いを大切にしていこうということだけを基本にしてきました。」という文です。私も退職し、それなりに歳を重ね、この思いが年々強くなっていくのを感じます。それだけに、生命誌研究館からの発信や中村先生の著書から学ぶことが多くあります。また、このコラムも楽しみにしています。震災の街では、新しい街がどんどん出来ています。それはそれでよいのですが、あの震災を経験したことで、何が変わったのか、価値観を含め以前と同じに戻ったのではないかとこの間もやもやした気持ちが続いています。だからこそ、これからも生命誌からの発信や中村先生のことばに期待しています。

お返事

投稿日：2016.01.07 名前：中村桂子館長

生命誌への応援ありがとうございます。
東日本大震災以降の日本のありようは、気になることばかりです。とくに東京がオリンピックという一見すばらしそうに聞える言葉ですべてを隠し、震災を忘れさせようとしていますから。先日もいわきの海岸の防潮堤を見、それに対する地元の方の気持ちを伺ってなぜこうなってしまったのだろうと情なくなりました。大きなことはできませんが、コツコツと自分たちの仕事をし、発信していくことは今年も続けたいと思います。よろしく願いいたします。

▲ ページの先頭へ

サイトのご利用について | プライバシーポリシー | サイトマップ | アイアポリシー | サイトマップ

BRH JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.